

「第11回農を取りまく情報交流の広場」の開催

食品の合理的な価格形成の必要性について、食料供給に関わる生産者・食品事業者等の生の声を消費者の方々に知っていただき、広く理解・共感を得ることを目的に取り組んだ。

○ 施策分類

その他（フェアプライスプロジェクト、食料・農業・農村基本法、ニッポンフードシフトほか）

○ きっかけ・背景、課題の把握

円安・国際情勢の影響等により、食品の原材料や生産資材、エネルギー価格が高騰、さらに流通コストが上昇し、農林水産業・食品産業は深刻な影響を受けている。これにより、行政・JA・農業者等との意見交換の場において、合理的な価格形成への要望が出され、特に消費者への理解醸成に取り組んで欲しいとの要望が多かった。

○ 取組の内容

「農を取りまく情報交流の広場」については、平成25年から実施しているが、その内容・登壇者について通例化のきらいがあり、今般から新たな視点によりリニューアルを図ることとした。

このため、3カ月前から「農取り実行チーム」を立ち上げ、次節に応じたテーマを追求するとともに、司会役となるファシリテーターやパネリストの選定を行った。また、Z世代の行動変容に取り組むため、安田女子大学の学生にパネリストを依頼した。

○ 効果・成果、今後の方向性

当日の参加者は、会場・オンライン合わせて約80人であった。参加者からは、「フェアプライスの必要性を感じた」等の感想が寄せられ、合理的な価格形成の理解醸成に寄与した。今後も時流にあったテーマでの交流会を実施することとする。



パネルディスカッション



農政局からの情報提供



自由交流



パネル展示

体制図

